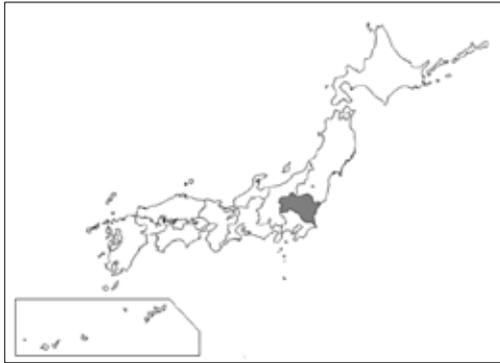


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

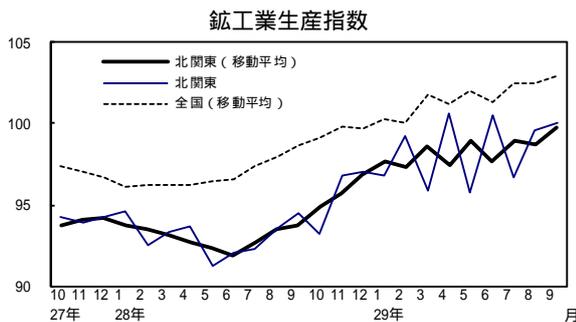
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
個人消費	持ち直し	<u>緩やかに持ち直し</u>	
住宅建設	おおむね横ばい	<u>減少</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7 - 9 月期には、「汎・生産・業務用機械」及び「電子デバ、電気・情報通信」は、海外需要を背景に引き続き好調で増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」、「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」及び「輸送機械」は、国内需要は堅調なものの、減少した。



- (備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値、最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心 3 か月移動平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

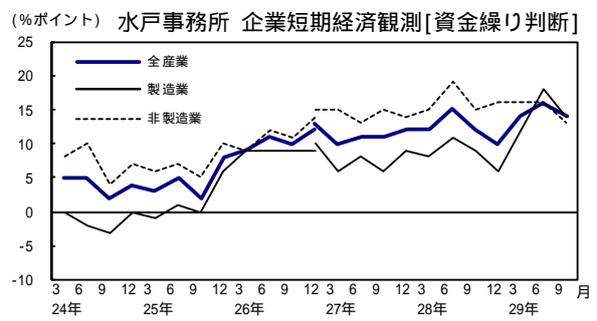
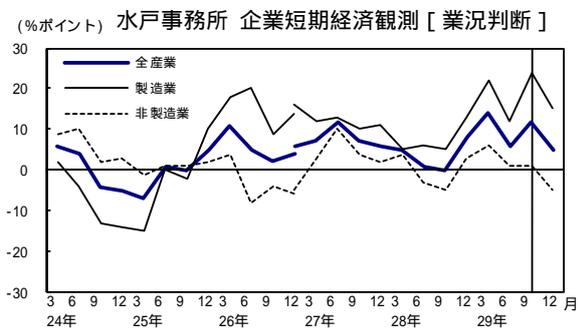
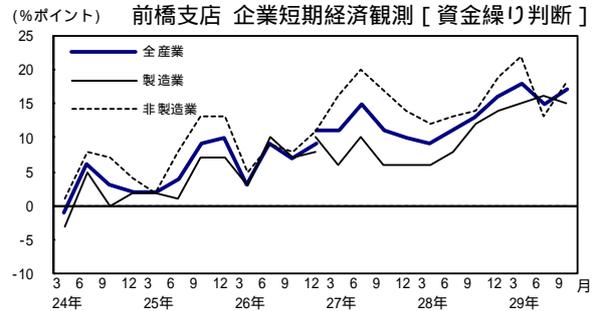
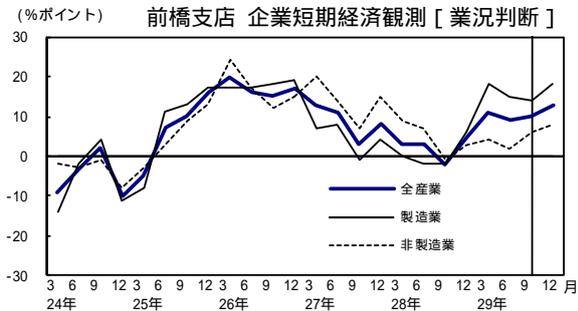
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7 月	8 月	9 月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.7	0.5	1.3	5.7	1.1	0.4
電子デバ、電気・情報通信	19.5	0.1	0.5	1.4	1.0	1.0
輸送機械	18.4	0.8	0.8	6.8	9.2	2.0
汎・生産・業務用機械	16.0	7.4	1.3	4.3	2.9	1.5
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.9	1.0	0.3	0.2	0.7	0.6
鉱工業	100.0	1.7	0.2	3.8	2.9	0.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
 2. 7 - 9 月期、9 月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

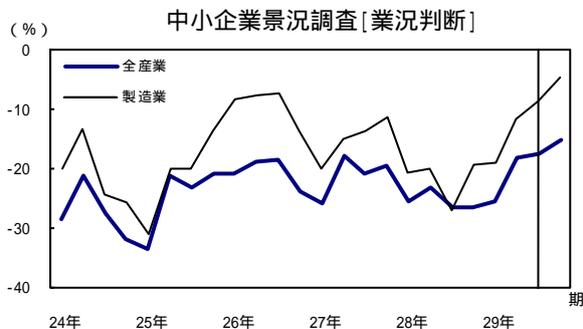
(2) 前橋支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
水戸事務所の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



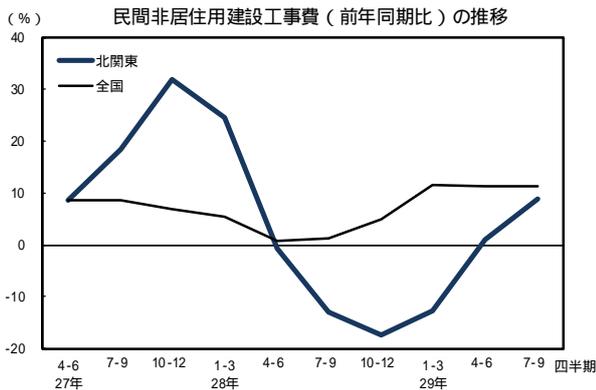
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「長雨や台風の上陸、更には衆議院選挙の影響もあるのか、主力製品の出荷が予想より伸びず、変わらない(化学工業)」等の回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建築統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)] (前年度比、%)

	28年度実績	29年度概
全産業		
前橋支店	16.6	3.5 (1.0)
水戸事務所	2.3	22.8 (2.4)
製造業		
前橋支店	29.4	8.9 (1.2)
水戸事務所	13.4	39.9 (3.7)
非製造業		
前橋支店	15.7	17.5 (0.1)
水戸事務所	8.4	2.4 (0.4)

(備考)()内は前回(6月)調査との修正率。

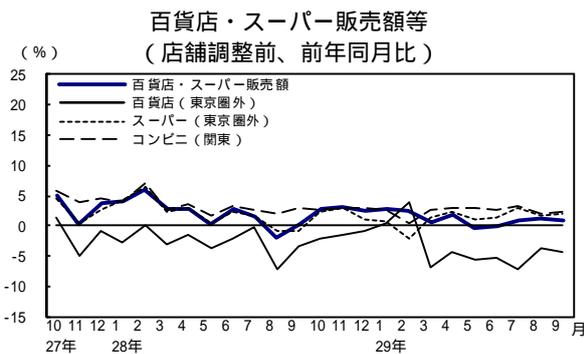
2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

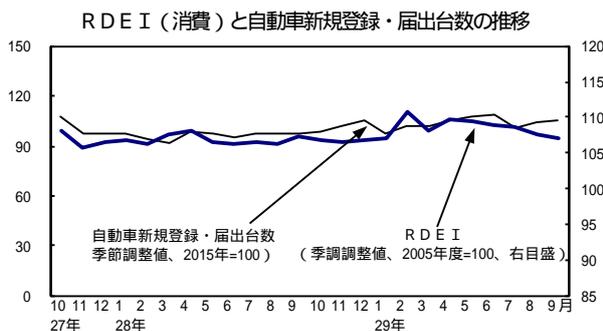
地域別消費総合指数 (RDEI (消費))
7月は前月比0.1%減、8月は同1.0%減、9月は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額
百貨店は、7月は、衣料品等の不調により、前年同月を下回った。8月は、身の回り品が好調であったものの、家庭用品等の不調により、前年同月を下回った。9月は、家庭用品が前年同月を上回ったものの、身の回り品等の不調により、前年同月を下回った。
スーパーは、7 - 9月期は、家庭用品等が不調であったものの、飲食料品及びその他商品が前年を上回ったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]
「衆議院選挙と台風の影響かとみているが、来客数が少ない(乗用車販売店)」等の「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



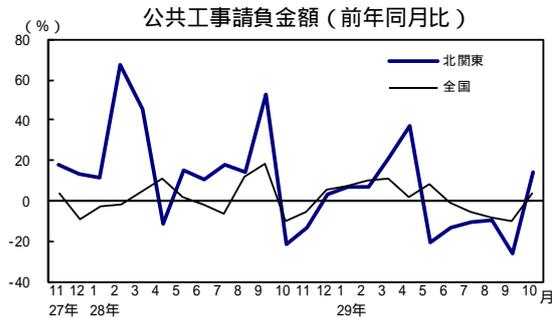
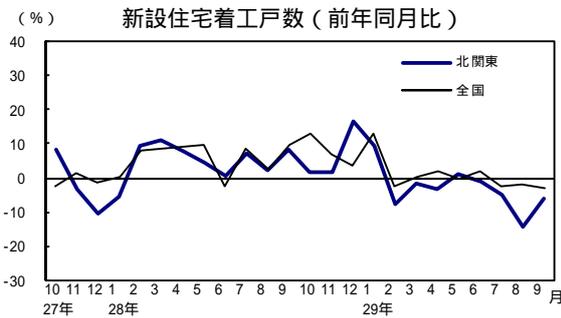
	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.4	0.1	1.0	0.5
百貨店・スーパー(*2)	1.0	0.9	1.2	0.9
百貨店(*3)	5.3	7.2	3.6	4.4
スーパー(*3)	2.3	3.0	1.8	2.0
コンビニ(*3)	2.5	3.3	2.0	2.3
乗用車(*4)	5.4	3.5	6.1	6.7
(季節調整値)(*4)	3.5	7.1	3.2	1.3



- (備考) 1. 季節調整前期(月)比(%)
2. 店舗調整前、前年同(月)期比
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
3. 店舗調整前、前年同(月)期比
・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外(茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡)の値。
・コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

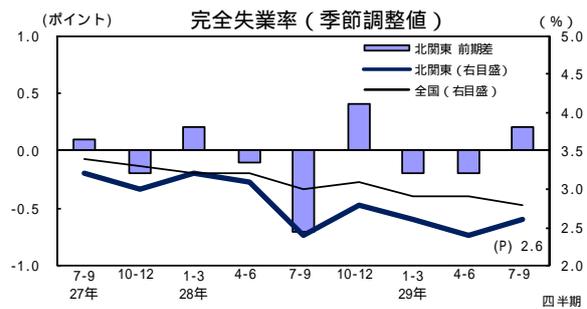
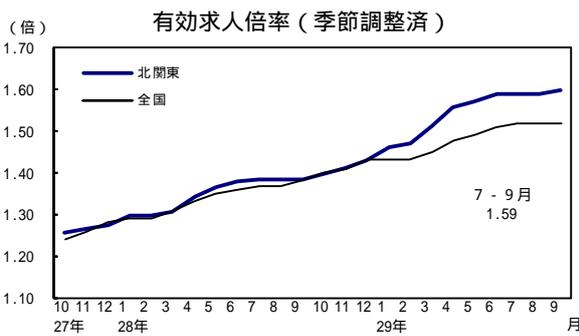
(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。
分譲は前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。
2. 7 - 9月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連 (現状)]

「労働契約法の有期雇用者の通算5年での無期雇用化の話を受ける企業が多く、おおむね消極的な回答が続いている上、有期雇用派遣への警戒感も広がっている (人材派遣会社)」等の回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	95	90	83	76	25
(前年比)	13.1	8.2	10.8	1.3	19.4
負債総額	183	165	132	202	38
(前年比)	93.8	26.3	35.6	65.9	29.2



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・野菜が高騰し、品質が悪い上に割当制など、欲しい物を欲しいだけもらえず、販売に支障が出ている(一般小売店[青果])

<先行き>

- ・来月の入場予約は順調に増加しており、やや良くなる(ゴルフ場)

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

